

令和6年9月度

## ネットパトロール記録

### 概要（傾向・事例等）

ネットとSNSの普及にともない「フェイク」という言葉が耳目を集めるようになりました。フェイクコンテンツが必ずしも悪というわけではありませんが、中には意図をもって流布されているフェイクコンテンツもあります。政府広報オンラインでは、「偽・誤り情報に惑わされないための基本のチェックポイント」として「1.情報源はある?」、「2.発信者はその分野の専門家?」、「3.他ではどう言われている?」、「4.その画像は本物?」の四点を挙げています。<https://www.gov-online.go.jp/article/202403/entry-5920.html>

この四点は真偽判定にとっても役立ちますが、「2.発信者はその分野の専門家?」と「3.他ではどう言われている?」を逆手に取ったような広告もあります。「No.1表示」、「高評価%表示」広告などと呼ばれるもので、例えば「医師の○%が推奨しています。」といった健康関連商品の広告で、どの分野の医師なのか、どの程度の人数の医師に聞いたのか等の情報がないまま、「その分野の専門家」の「医師」が登場するケースが「高評価%表示」です。また、「顧客満足度 No.1」といった広告でも、客観的な裏付けのない恣意的な調査の結果に基づいて No.1 としているケースがあるようです。広告は消費者の意思決定に働きかけるためのものですが、客観的な裏付けのない No.1 表示等は、景品表示法の抵触する恐れがあります。<https://www.caa.go.jp/notice/entry/039459/>

### 今月のおねがい

～ 大人の経験を青少年に伝えましょう ～



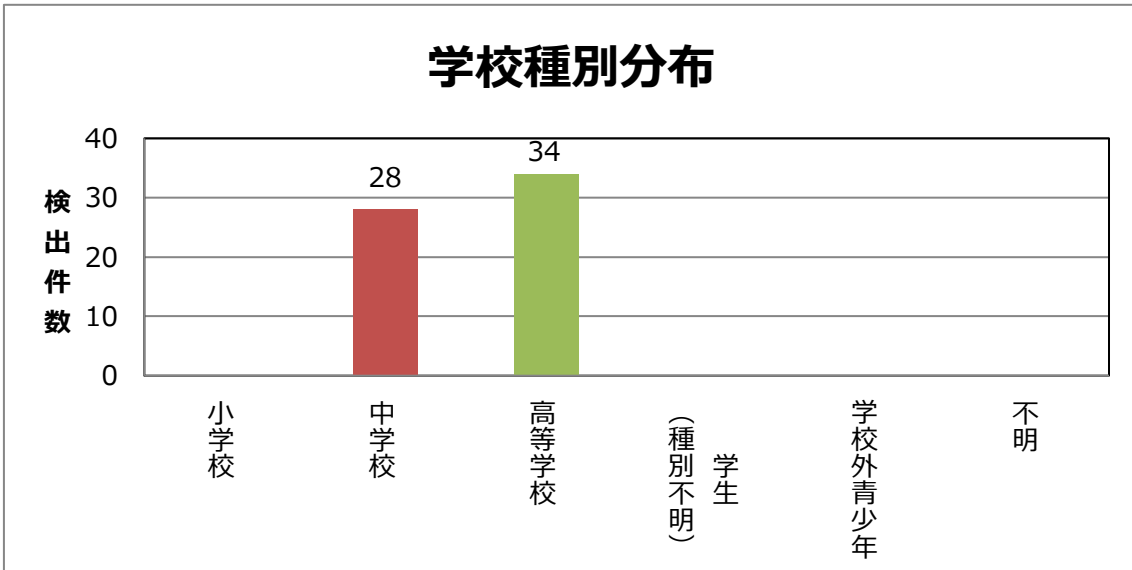
フェイクニュースや No.1 表示といった言葉は目新しいものですが、他人の意思決定に不正に働きかける手法は、ネット、SNS の普及以前からあり、大人であれば自身の経験や常識に照らし「フェイク」と判断できます。しかし、こどもは小さな大人ではない、という言葉があるように、社会経験の浅い青少年が真偽を判定できるとは限りません。青少年がどんな情報に日々触れているのかに目を配り、大人の経験や常識を伝えていきましょう。

### 検出件数

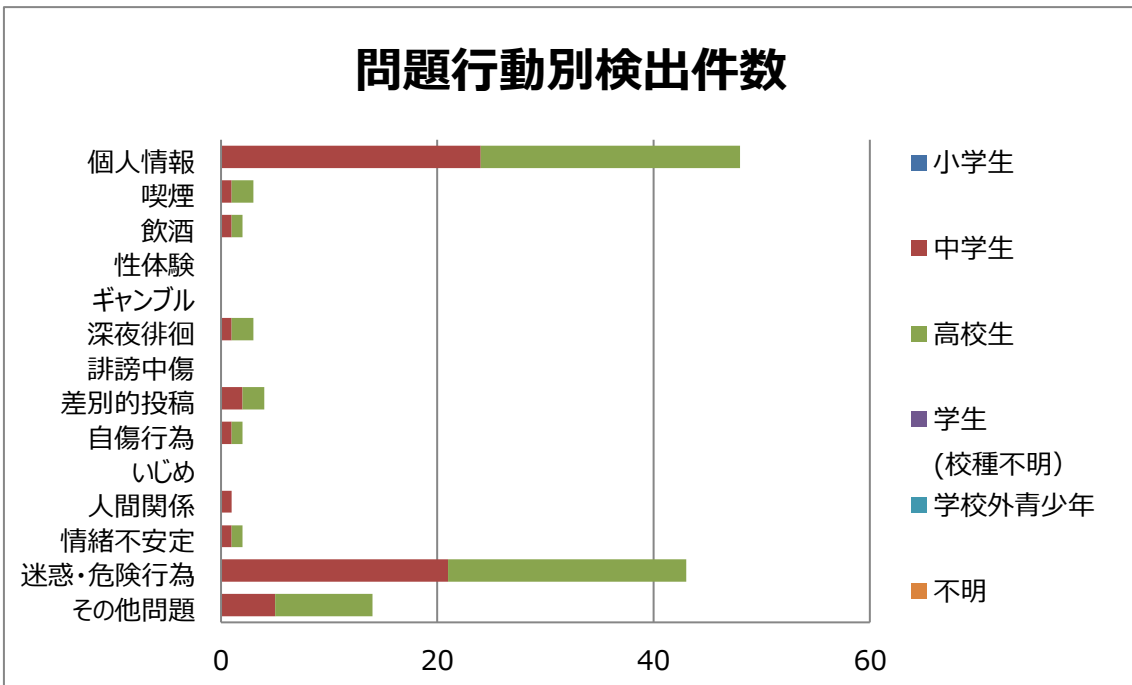
9月の検出件数は **62** 件でした。



### 学校種別検出件数

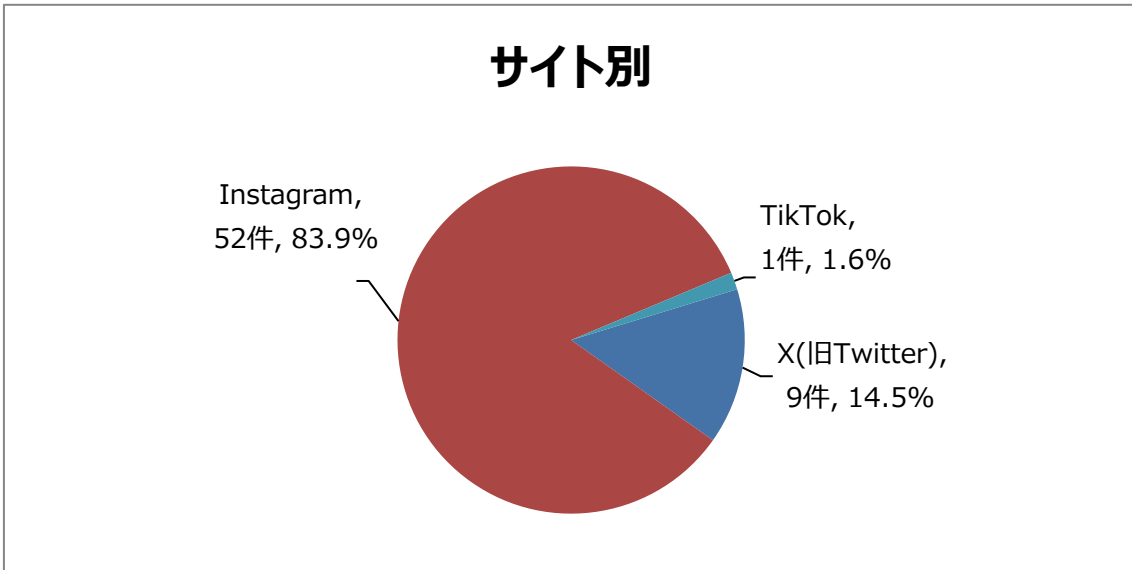


### 問題行動別検出件数





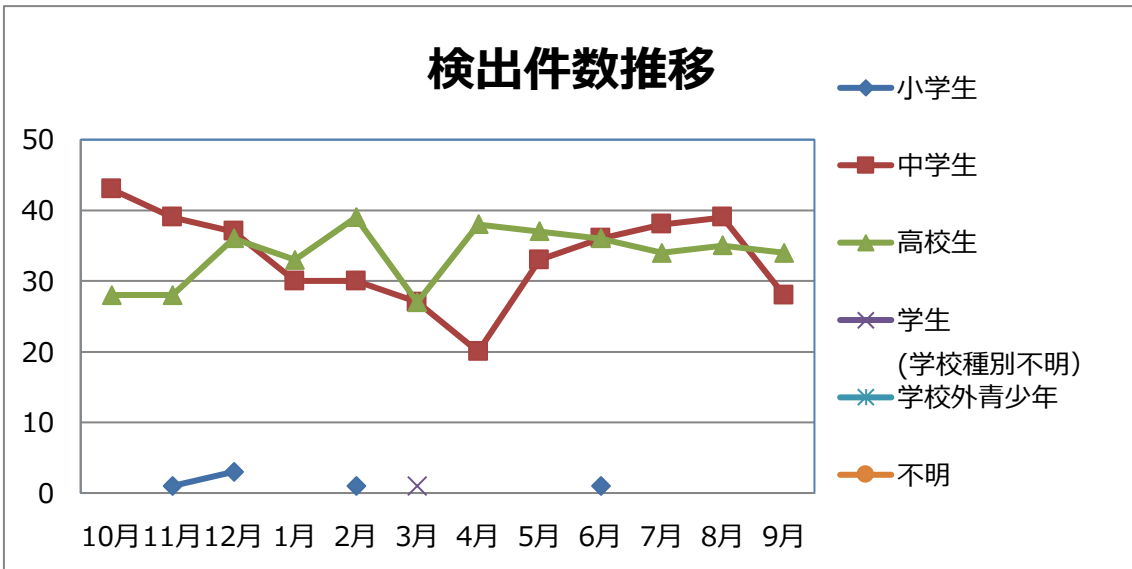
## サイト別



※四捨五入のため合計が100%にならないことがあります。



## 検出数推移



以上